

宗谷南農協通信

No. 010



- JA宗谷南役員研修
- 後藤亮介さん・栞さんご結婚おめでとうございます。
- 日本農業新聞長期普及優績表彰
- Aコープ歌登店セミセルフレジへ

- JA宗谷南女性部座談会
- 組合員懇談会
- マイナビ農林水産就農FEST
- 授精所だより
- JAグループ通信

J A 宗谷南役員研修

11月15日から17日の3日間に渡り
J A 宗谷南役員研修が行われました。

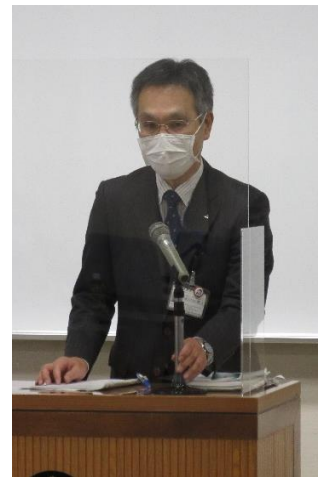
コロナ禍の影響もあり昨年は中止となりましたが、コロナウイルススワクチン接種の影響から収束傾向にあり、緊急事態宣言が解除されたことで研修を行う事とし役員14名が参加しました。

例年、J A 北海道大会の開催に合わせて実施しておりましたが、今回はJ A 北海道大会への参加人数が限られており向井地組合長が出席し、その他の役員につきましては、別の研修参加となりました。

1 日目はJ A カレッジにて、「農協法と役員の職責」を研修テーマとし



神丸校長先生



木川田研修部長

研修を受けました。当日、J A カレッジの神丸校長、中島教頭、木川田研修部長の迎えを受けましたが、稚内勤務の経験があり宗谷とは縁も深く、懐かしんでおられました。

早速研修に入り、先ず神丸校長よりJ A カレッジの概要が説明されました。大正10年、北海道庁「北海道産業講習所」として開設され、50年間道が運営主体となっていました。その間3回の改称を経て昭和45年、「北海道農業協同組合学校」に改称され、北海道から北海道農業協同組合中央会に運営を移管し今年で50年を迎える記念すべき年でありました。

J A カレッジは3部門、20名の職員で対応しており、研修事業では、当農協の役員も受講している研修もあり、年間70回の各研修計画を予定していましたが、コロナ禍の為各研修の中

止が多くなっているようです。

学生事業では、1年間の全寮制、2クラスとし、卒業生が各J A に就職の際、話が出る人間形成を目指しているそうです。在学中の資格取得も各種あり合格率も高い傾向でありました。

近年は就職予定J A から要望が



JAカレッジでの研修の様子

あり、家畜人工授精師の資格取得もあるそうです。そのような中、年々受験者・入学者数が減少しているとのこと、定員60名のところ10年前は200人を超える受験者（内大学生115人）がいましたが、令和3年においては53人（内大学卒6人）との事でした。

引続き、木川田研修部長より研修テーマに沿って、農協法による組合員の条件、義務等の基本的な部分、理事・監事の責任について説明されました。

理事は理事会において組合の業務執行に関する意思決定を行い、他の理事の職務の監視義務を負うなどの責務があり、監事は業務・会計監査の権限を持ち理事が行う業務執行、会計を監査する機関として、それぞれに重責を担う基本的部分を再確認しました。過去に発生した役員責任に係る事例を基に経営判断について話されましたが、「経営者は失敗を恐れずにチャレンジしてほしい。」との言葉で最期を締め上げて頂きました。

2日目はホクレン本所において、生乳受託課、佐藤課長から生乳需給を取り巻く動向及び今後の取組について研修を受けました。生乳生産量の推移は7月に猛暑の為一時下がったが回復も早く、1番牧草の品質・収量、2

歳以上のホル雌頭数が増えているので、前年以上で推移しているとの事です。用途別販売動向においては、飲用向けは都府県の実質冷夏による需要低迷、都府県の生産増による道外移出の減少、加工向けについては生産量の増加、道外飲用向けの減少により製品在庫量が増加となっています。インバウンドの影響が大きく、昨年は消費を上げようとする動きがあったが今年は鈍い傾向が現状のようです。年末年始・年度末は動きが少ない時期でもあり、一時的な生産抑制の対策が必要となるが、「出口対策として出来ることは全てやる。」とのことでした。

参加した役員からも質問、要望等が発言され、佐藤課長からは、「抑制は出来るだけしなくはない、若い人、新規就農者に向けても抑制は控えていきたい。」とお話しされておりました。

限られた時間での研修でしたが、参加された役員におかれましては役員としての責務、生乳需給の取組状況について再認識でき日常業務に直結する内容となり、2日間の研修を終え帰路につきました。



ホクレン本所での研修の様子



ホクレン農業協同組合
生乳受託課 佐藤課長

後藤亮介さん・葉さん

ご結婚おめでとうございます

この度、歌登の後藤亮介さんと間見谷葉さんがご結婚されましたのでご紹介します。

後藤亮介さんは後藤英治さんの長男で、妻の葉さんとは知人の紹介で知り合い、人柄に惹かれ今年の初めに交際がスタートし、今年9月に結婚しました。

そんな2人に結婚後の目標についてインタビューをすると、結婚後、経営面では次のステップに向かうため、まずは土台をしっかりと作り、けがの無いよう仕事に慣れ、健康な乳牛を育てていきたいし、家庭面ではこの先喧嘩をすることもあると思うが、それでもお互いに支え合い、いつもでも仲良く牧場運営をしていきたいと話してくれました。



日本農業新聞長期普及優績表彰



9月28日、日本農業新聞の令和2年度長期普及優績J A表彰状が当農協に授与されました。

日本農業新聞長期普及優績とは、J Aが取扱う日本農業新聞が5年間増部したJ Aに対し送られるもので、令和2年度では、全国で37 J Aが対象となっており、日本農業新聞の推進に貢献しました。

当日は、日本農業新聞北海道支所の岡部支所長が来訪され、支所長より向井地組合長へ授与されました。

農業情勢が目まぐるしく変化する昨今、日本農業新聞を購読されていない方は、情報収集のツールとして、購読してみたいかがでしょうか？
また11月より電子版も創刊されていますので、興味のあるかたは、営農部営農課までお問い合わせください。

Aコープ歌登店セミセルフレジへ



セミセルフレジを導入した、店舗内写真。

Aコープ歌登店では、12月1日よりセミセルフレジを導入しました。

新型コロナウイルス対策として、お金を触る機会を減らす目的と、業務の効率化を図る為、店員が商品情報をレジに登録し、顧客自身が精算機で決済する、セミセルフ方式のレジに変更しました。このレジを導入することにより、現金の他にクレジットカードや「Paypay」などスマートフォンによる決済などのキャッシュレス決済にも対応し、ますます便利となりました。

今後も皆様のご期待に添えるような商品展開をしてまいりますので、お買い物の際には、ご意見などお気軽に申しただけると幸いです。

※キャッシュレス決済の対応会社等については、Aコープ歌登店にお問い合わせください。

J A宗谷南女性部座談会

新型コロナウイルス感染拡大防止策で、集会等の自粛が余儀なくされる中、北海道では9月30日で緊急事態宣言が解除され、緊急事態措置が終了となり、これを機に女性部では、酪農振興センターで座談会を開催し、部員12名が参加しました。

特に決まった議題はなく、近況報告や、日頃からの疑問に対し皆の意見を聞く事などして交流を深めました。

特に話題となったのは、やはり仕事のことで、子供の飼養管理や、体細胞について話し合い、有意義な時間を過ごしました。

緊急事態宣言は解除されましたが、コロナ禍ということもあり、昼食を取らずに、2時間という限られた中での座談会でしたので、まだ話足りない方もいたみたいで、次回は勉強会等で皆様が集まれる機会を設けることで解散となりました。



組合員懇談会

11月9日～10日にJ A宗谷南組合員懇談会が振興センター・歌登支所で行われました。

組合長挨拶では令和3年度の決算見込みやコロナウイルス影響下の中、バターなどの乳製品の需要供給や生産乳量など酪農情勢について説明がありました。

懇談会議題につきましては、営農部営農課の奥平課長から営農計画書作成時の留意点などについての説明後、西澤営農部長から酪農情勢についての報告をしました。組合員からは、自然災害等の要望が上げられました。

懇談会終了後は、コロナ禍という事もあり、参加者にはお弁当を持って帰ってもらおう事としました。



マイナビ農林水産就農FEST

10月30日、北海道自治労会館

(札幌市)で株式会社マイナビ主催の農林水産就農FESTが開催され、枝幸町農業推進連絡協議会が出展しました。

北海道で就農相談会が開催されるのは、2年ぶりとなり、多くの来場者が来ることが予想されましたが、来場者49組で以外に少なく農業への興味が以前に比べ少ないように感じました。

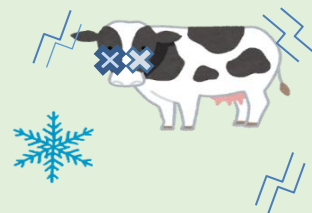
出展ブースは、畑作から畜産の23ブースがあり、新規就農支援や



就農の相談があり、酪農に関連するブースが10ブースありました。

枝幸町のブースには、20代の4組が、就農する為の道のりや資金について相談され、真剣な眼差しで酪農経営について夢を語ってくれました。今後もこのような機会があれば、積極的に参加し、枝幸町で農業に従事できる切っ掛けになるよう声をかけていきたいと思えます。





最近はどんどん日も短くなり、寒さも増してきました。そこで今回は寒冷対策についてお伝えしていきたいと思います。

牛の寒さへの強さについて



牛は比較的寒さに強い動物ですが、約14℃から寒冷ストレスを受け始めると言われています。哺育牛や育成牛は特に寒さに弱く、14℃を下回ると増体等に使うエネルギーも体温維持に使ってしまいます。

哺育牛の防寒対策の例とし



- ①すきま風を防ぐ
 - ②敷料を多めにし、牛体の乾燥を保ち、体温が奪われるのを防ぐ
 - ③カーフジャケットやネックウォーマーを利用して保温効果を高める
 - ④ハロゲンランプや遠赤ヒーター等の暖房器具で温める
 - ⑤余ったポリ容器等にお湯を入れ、湯たんぽ代わりにしておく
- など、上記のような対策法があります。

特に牛の体を濡らしてしまうのはとても体温が奪われやすいため可能な限り濡らさないようにすることが大切です。

寒冷対策をして保温する事も大切ですが、同時に換気も大切です。

換気をせずに閉めきっていると湿気やアンモニアガスが発生し、呼吸器病の原因になります。直接風が当たってしまうと余計に寒く感じてしまいます。そのため、直接当てないようにしながら、日中などに換気を行う事が大切です。

これからの寒い冬を乗り切るために参考にして頂ければ幸いです。





JAグループ北海道では、令和3年11月16日に、第30回JA北海道大会を開催いたしました。本大会は、グループの基本方針を確認し関係者の意識を統一することを目的に、3カ年に1度、全道から組合員の皆さんの代表者が札幌に集まり開催しているものです。

今回の大会では、グループの将来ビジョン“北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」”を実現すべく、令和4～6年度におけるグループの基本目標として、「JA運営の好循環に向けて対話の成果を実践」「JA運営の好循環を支える人づくり・JA経営の強化」が定められました。

本決議をもとに、組合員・JA・連合会一丸となって、JA運営のスパイラルアップに繋がるよう取り組みましょう。



↑大会実行委員長挨拶を述べる中央会小野寺会長

JA北海道信連



特殊詐欺被害については、新聞・テレビなどで連日報道されている通り、新たな手口が広がるなど大きな社会問題となっています。JAバンク北海道では、11月～1月にかけて、道内のJAバンク店舗でご来店者に対する声かけ運動を行うとともに、STVラジオでオリジナルコーナーを設け、北海道警察の専門家から、詐欺の手口や気を付けるポイントを説明いただくなど、啓発活動に取り組んでいます。

JAバンクでは、引続き北海道警察と連携し、特殊詐欺被害の撲滅に向け取り組んで参ります。



JA共済連北海道



JA共済連では、地域社会貢献活動の一環として、昭和50年から毎年道内各市町村の消防本部に救急車を寄贈しております。今年度の寄贈台数は3台であり、十勝地区の中札内消防署、留萌地区の羽幌消防署、上川地区の上富良野消防署に寄贈いたします。当年度の救急車の寄贈が完了しますと、寄贈させていただきました台数は累計で212台となります。今後も行政とJAとの連携を図りながら、組合員ならびに地域住民に安心と安全の提供を続けるように努力してまいります。



ホクレン



ホクレンは、北海道日本ハムファイターズと共同で取り組んでいる「北海道農業応援プロジェクト」の一環として、10月1日に札幌ドームで開催された北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ戦に協賛し、「ホクレン北海道農業応援ナイター」として試合が行われました。試合観戦に訪れた来場者に向けて北海道農畜産物のPRや農業への理解を深めてもらおうと特設ブースを設置。ホクレン大収穫祭などのチラシを配布するほか、大型ビジョンでCM放映を行うなどPR活動を行いました。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓発推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。本号ではプレゼント企画も行っております。QRコードからWeb上で閲覧・応募が可能となっておりますので、ぜひご応募ください。



JAグループ北海道の連合会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

大地がひとを強くする。

AGRIACTION!

HOKKAIDO

